

(様式例)

令和7年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立蒲田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・3年生の基礎の正答率が目標値を上回ることができた。授業内での小テストの回数を増やして演習量が増えた結果であると考えられる。そのため、「知識・技能」の結果も目標値を上回る結果となった。
- ・2年生の文字式の正答率が目標値を上回ることができた。3年生同様小テストの成果が出た物であると考えられる。

(2) 課題

- ・1年生の数値が全体的に下回っている結果となった。解き方もそうだが、反復練習が不足していると感じているので、演習量を増やしていきたいと考えている。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	目標値を下回っている		
第2学年	目標値を下回っている	目標値を下回っている (第1学年時)	
第3学年	目標値を若干下回っている	目標値を上回っている (第2学年時)	目標値を下回っている (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている	目標値を下回っている	

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を若干下回っている	目標値を下回っている	

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っている。	目標値を若干下回っている。	

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・授業の度に計算の課題を課し、計算能力の向上を目指す。特に分数に対して苦手意識を持っている生徒が多く、練習を重ねたい。 ・授業の中でも数学の専門的な用語や考え方を扱い、共通理解と知識の定着を目指す。	・解答のみならず、途中式を書かせることで解答へ至るまでの経緯を表現、確認させる。	・章末テストや期末考査で学習の状況を振り返らせる。 ・日常から計算問題に触れさせることで、計算の正確さや速さに対する意識を育てる。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・習熟度コース別の小テストをこまめに実施し、理解状況を把握する。 ・基礎的な計算を反復練習する時間を多く設け、計算力の向上を図る。	・答えが合っているか合っていないかだけではなく、「なぜ式がこうなるのか」や「この式はどういうことを表しているのか」を考えさせ、共有させる。	・単元テストや期末考査で毎回振り返りをさせ、間違えた部分の直しと間違えた原因を分析し、同じ間違いをしないように今後の対策を考えさせる。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・習熟度別の小テストを引き続き実施して、基礎の定着を図る。 ・教科書の練習問題の他に、少しレベルの高めの問題を取り組めるようにして練習量に負荷をかけていく。	・数学が得意な生徒は答えたにたどり着くまでの過程を大切に、なぜその答えにたどり着くのかを自分の言葉で説明できるようにする。 ・数学が苦手な生徒は難しい問題に対してのアプローチの仕方がわからない生徒が多いので、ゆっくり伝えながら方針を理解させて反復練習して習得させる。 ・公式を覚えるだけでなく活用の仕方や式の変形にも力を入れて理解させる。	・日々の授業や単元テストや定期考査の時に振り返りを行うときには、ポイントなどをまとめるようにして、その日の授業が定着できるようにする。